

第12回
多可町生涯学習まちづくり委員会

会議録

《概要版》

事務局 多可町生涯学習課

第12回多可町生涯学習まちづくり委員会 会議録

- 日時 令和5年12月21日(木) 午後7時30分～午後9時00分
- 場所 多可町役場 大会議室
- 出席者
- ・委員 5名/12名(敬称略)
近藤 文好 杉本 真 山本 和樹 遠藤 ひとみ 藤賀 幸子
 - ・欠席委員 蔦木 伸一郎 小林 一光 小寺 祥之 立石 一真 山本 早希
後藤 さおり 石塚 郁
 - ・事務局 生涯学習課 課長 藤原 徹
副課長 中里 尚子
課長補佐 橋本 行広
副課長 梅田 一志
理事兼教育総務課長 金高 竜幸
図書館長 依藤 啓子
- 議事
- (1) 第2回ワークショップの振り返り
 - (2) 今後の委員会について
 - (3) 運営に対する提案について
 - (4) 今後のスケジュールについて
- 会議結果
- (1) 第2回ワークショップの振り返り
 - ・愛称のお披露目がVTRでされ良かった。
また、A s m i l e (あすみる) という愛称についても非常に良かった。
 - ・中学生から大学生までの若者たちのプレゼンが非常に良かった。
ぜひ、運営に採り入れてほしいと思う内容もあった。
 - ・建設現場の見学では、まだ建物などはなかったが、広さが実感できたことなどが良かった
 - (2) 今後の委員会について
 - ・今回の委員会で各委員から運営に対する提案をいただき(欠席者からは後日、紙面で提出)、そのご意見やこれまでの委員会の活動を参考に、事務局が提案書(案)を作成。
その案を次回の第13回委員会で協議し、2月に提案書を町に提出する。
町への提出方法については、別途協議。
 - (3) 運営に対する提案について
 - ・運営と言っても、なかなか何を言えばいいのか難しい。
 - ・いろんな方がやりたいことがやれて、尚且つ図書館とプラザの活用が連動されて連携されて相乗効果として盛り上がっていくというのがいい。今までの活動や議事録、各委員の提案を元に、事務局がたたき台として提案書(案)を作成。次回委員会までに委員に送付して、確認していただく。

(4) 今後のスケジュールについて

- ・ 1月 提案書（案）協議
- ・ 2月 提案書 提出

■会議の経過

<p>次第 1</p> <p>(事務局)</p> <p>(座長)</p> <p>(事務局)</p>	<p>開会</p> <p>ただいまから第 12 回多可町生涯学習まちづくり委員会を開会いたします。開会にあたりまして、座長からご挨拶をいただきます。</p> <p>みなさんこんばんは。今回会議が急になりましたことまずはお詫び申し上げます。</p> <p>本日は第 2 回ワークショップの振り返りと、今後の委員会について最終になりますけど、運営等の提案のまとめのほうの段階に入らせていただきたいと思います。活発なご意見をよろしくお願いします。</p> <p>それでは早速ですが、本日の議題に移ります。 座長、進行のほうをお願いいたします。</p>
<p>次第 2</p> <p>(座長)</p> <p>(事務局)</p>	<p>第 2 回ワークショップについて</p> <p>次第 2、第 2 回ワークショップのついてというところになります。</p> <p>ご参加いただいたみなさん、委員の方々、非常にお世話になりました。ありがとうございました。後ほどみなさんには一言ご意見ご感想をいただきたいと思うんですが、大学院生、高校生、中学生、非常にがんばってくれました。10月末から依頼して、10月は学校行事等々も非常に忙しい中、また中にはコロナになられた子ども達もいて、なかなか七転八倒した中での発表でありました。非常に形としては、何か良いなという感動を私は持っています。まずはワークショップに参加をいただいた委員の方ひとり一人から感想とか振り返りとかいうものをいただけたらと思います。</p> <p>事前にまず事務局のほうからアンケートとか議事録等の説明をお願いします。</p> <p>それでは、報告させていただきます。お手元に資料を置かせてもらっていて、事前に送ったものもあるんですが、ワークショップの報告というカラーのものど、ワークショップの議事録、こちらが発表の時の議事録になります。あとワークショップのまとめとしてアンケートのまとめを参考につけさせていただいています。内容については後で見てもらったらと思います。</p> <p>第 2 回ワークショップでは 3 つのことをさせていただきました。1 つが生涯学習まちづくりプラザの愛称のお披露目、2 つ目が「未来を支える若者たちからのメッセージを聞こう！」と題したプレゼン大会、3 つ目が建設現場の視察を行いました。当日は、会場となったアスパルのロビーに約 100 人くらいが集まったかなと思います。</p> <p>まず、1 つ目の愛称のお披露目ですが、10月の委員会で選考いただいた「あす</p>

みる」という愛称を動画を使って発表させていただきました。新しい愛称については、考案者が込められた思いも含めて、良い名前に決まったねというご意見をいただいております。

2つ目のプレゼン大会では、西脇北高校、西脇高校、多可高校の生徒さん、播州歌舞伎クラブに所属している中学生、北はりま特別支援学校の生徒さん、日本語教室に以前おられた外国人の方、兵庫教育大学の大学院生で1 POMEという団体に活動されている学生の方、全部で8つのグループが「あすみる」に対しての思いを発表しました。「自分たちがあすみるで何ができるのか」「あるみるを利用するために、こういったものがほしい」「こんな施設になってほしい」など様々なご意見をいただきました。内容については議事録を見てもらったら、詳しいことがわかるのかなと思います。あと終わってからの詳細のアンケートもかなりいろんな意見をいただいております。それについてもまたアンケートまとめて詳しく載ってますので見ていただけたらと思います。

3つ目の現場視察は希望者だけということだったんですが、だいたい20人ちょっとくらい参加していただいて現場を視察しました。視察では建設課から工事の概要とか説明していただきました。写真を見ていただいてもわかるんですが、まだほとんど何もない状況でちょっと区切ってあるくらいでしたが、大きさを体感していただくことできたのかなと思っています。

以上、報告とさせていただきます。

(座長)

それでは、まず出席をしていただいた委員の方から感想とか振り返りを順番にいただけたらと思います。

(A委員)

はじめの愛称お披露目というところが非常に良くて、結果なるべくしてというかつけられるべくしてつけられた良い愛称だなというのが実感で、良い愛称になって良かったなと思っています。ワークショップですけど、座長と課長がかけずり回ってしていただいて、手を挙げていただいたとかそういう方ばかりの発表で非常に良かったなというふうに思います。私らの気づかない視点もありましたし、私は特に北はりま特別支援学校の「北はりま流おもてなし」というところが非常に気に入って、そういうところどんどん学校の中で学んだことを活かして持ってきていただくとか、そういうのもいいなと思いましたし、ものづくりの作業学習の中で、そういうところもマルシェとかそういうお店で販売してもらっても賑わいにつながるんじゃないかなと思いました。それで思ったんですけど、それぞれの年代層にどのような目的でとか、何を求めて「あすみる」へ出掛けますかみたいなそういう意識調査とか要望調査なんかもしていったらどうかなと思います。我々委員の思いと一般の方とズレがあるかもしれませんし、そういう突拍子もないような意見も非常に今では大歓迎じゃないかなというふうに思います。いずれにしても、多くの方に発表していただいて、それぞれの兵教大の大学院生には大学院生の、多可高生には多可高生の、それぞれ母体となる応援団や集団があると思うので、そういうのもどんどん「あすみる」へ足を運んでいただける一つの関わりのある団体として、そういうのも来てもらえるのが約束できるのか、そういう応援団としての集団もどんどん増やしていけたらなと感じました。

(B委員)

大変事務局もすごく頑張っていたなという印象があります。アスパルの1

階ロビーでこういう催しというのは以前からやられてたんですか。初めてですか。

(事務局 梅田)

コロナの集団接種以来です。

(B委員)

何かすごく良い感じで、参加されてる方も非常に新鮮というか、すごく良いワークショップだったなど。その流れで図書館の吉田田タカシさん。あれも同じような感じで、何か一連の良い流れができてると感じました。

「あすみる」については本当に良い名前になったあとというのが時間が経つにつれて実感されてきます。これにいろんな思いがどんどんこれから乗っかっていくのかなというふうに思って、しかも非常に生涯学習課さんの方でこれ見栄えというか「Asmile」あつ「ええすまいる」やったんやというのもあとから気づいたりして、すごくがんばっていただいたなっていうふうに思っています。

ここで発表してくれた子達も、ほんとに素直に自分が思ってることを背伸びせずにそのまま言ってくれて、すごく良かったなって思います。ここで発見したのがプリクラというのがこれだけ彼らというか彼女達にとっては重要なアイテムというのかそうなんだっていうのがすごく新鮮でした。その日の夜に「珍百景」で郡上市の中学生の女の子3人がプリクラを誘致しちゃったんです。それが珍百景だと。郡上市からプリクラを撮りに行くのに片道1時間半かかるらしいんです。交通費が3000円かかると言っていました。それでも「やっぱり次の日曜日行こう」ってある友達に言ったら、「そんなん1ヶ月前から言ってくれないと交通費も貯めないといけないし」とそれくらい大変な思いをして、でも行きたい撮りたいというすごい思いがあって。で、彼女達は自分達で誘致してしまう。それが珍百景だったんです。奇しくもそれがその夜やってまして、今どこへ行ってもプリクラって必要なんだなって感心したというか、その場で発表してくれた意義というか、決して見過ごしちゃいけないというかそういう思いが。その後どういう動きになってるかわからないですけど、いちおう発表した多可高校の子には、珍百景でやってたよと連絡しておきました。とかいろんな発見があってすごく良かったのと、それとその後の吉田田タカシさんに自然とつながっていったのが、今から思えば良い流れになってるといふふうに思います。

それともう一つ強調しておきたいのは、建設現場の視察です。良かったです。というのは、何もないから逆に想像を膨らませるといふか、そんな感じがして。特に建設課の人の説明でシンボルストリート、そこが結構幅があって、何かすごいスペースが良いなっていうふうに思いました。あともう1つは、今、電柱とかあって木があって、でもやっぱり千ヶ峰と妙見山はちょっと見えるような配置にはなっていて、電柱は下に埋めるか撤去するか何かするようなそんなことは元々考えているというふうなことはおっしゃられてました。それと子育てふれあいセンターとの仕切りがなく、それこそ芝生でつなげるようなイメージなのかなっていうふうに、勝手にお話を聞いておりました。それで私が思ったのが、これに参加できなかった委員の方にはどうやって伝えたらいいかなっていう。感動を。何かそういうふうに思いました。ほんとに同じ場にぜひ立って感じてほしかったなっていうふうには思います。非常に良かったと思います。

(D委員)

2人の委員さんが言われたとおりのんですけど、やっぱり若者の声を聞くっていうことは、そして生の声を聞くというのはほんとに良いことだったなと思うのと、

私は受付にいたんですけども、北はりま特別支援学校の子達が時間よりとっても早く来てくれて、おうちの方も実は入口にいらっしやって「聞いてもいいですか？」って言われて「どうぞどうぞ」って入ってもらったんですけど、何かはじめてから温かいものを感じて、ほんとにあの子達ドキドキしながら発表してくれたと思うんですが、座長が上手く司会進行されたので穏やかなうちにあれだったんですが、近くにある、そして実現味のある話で、A委員さんが言われたようにぜひ花いっぱいにしてもらったり、作られたものを販売してもらったり、いろんなことがあるかもしれないんですが、これは実現をしないと、あそこまで先生方も家族の方も協力されて、お母さんが「ドキドキします」ってはじめからおっしやってて、たぶん家でもそういう話題もあって、その温かみでこれは良い会になるなと受付で感じました。だからぜひ実現に向けてしてほしいなと思いました。それから発表者の中では一番中学生が幼かったんですが、ピュアな発表できっとドキドキしてたと思うんですけど、あの子達も中心になってこれから使ってもらえる、やっぱり地元の子達の声っていうのは良いことで、ほんとに良い企画だったと思います。これに私達未来がある高齢者も参加させていただけるので、いいあれになるんじゃないかなと思いました。

愛称発表のプレゼン良かったです。

蛇足になるんですけど、私小学校のほうに図書館アドバイザーでまわってるんですけど、たか広報に出てから行ったら授業をさせてもらってるんですが、それで発表させていただいたら子ども達が手をたたいてくれたのにはほんとに。私が決めたんじゃないんですけど「へえ、さすが」とか言って、どの子達もにこにこして聞いてくれて、「たか広報に出てるのよ」って言ったら「それおじいちゃんとかおばあちゃんが見るやつやろ」とか言って、現物を持って行ったらみんなわーっと見に来て、1年生から6年生までに紹介しました。報告しておきます。とても良い会だったと思います。

(座長)

ありがとうございます。事務局もひとり一人から聞かさせてもらってもいいんですが、時間の都合もありますので代表で金高課長よろしくお願ひします。

(教育総務課長)

ほんとに聞かせていただいて非常に良かったなと思います。

それと前段で前の実行委員会が終わってからワークショップを始めるまでの座長の動きというか、実は情報もいろいろと入ってくるので、ほんとに一つずつ交渉されてしっかりと参加者を集められたというのはすごいなと思いました。なかなかお勤めもされていながら時間を見つけて動かれているというのがよくわかりましたので、ただやはりそういう思いを参加者の方も感じられてこの発表につながっていったのかなというふうに思いました。A委員も言われてましたけど、やはり支援学校の子どもの発表の中で、情景が浮かぶような形で聞こえてました。ほんとにこういう形ができていったらいいなと、この生涯学習まちづくりプラザができあがっていくというのが、発表を聞くことで想像できたなというふうに思いました。みなさんの意見、非常に貴重な意見を聞かせていただいたし、今日こうやってまとめているんで、また教育長にも見せておきます。ありがとうございました。

(座長)

最後に私の方から。1回目のワークショップも正直どうなるかと心配しました。参加者が100名近くになって、あの時は各グループに高校生の中学生のグループ

とか、いろいろとグループ分けをして多世代の方にいろんなまちづくりプラザの設計とか活動についてまとめていただいて発表をさせていただいた。その時に最後の言葉で私は「今のこの風景がまちづくりプラザじゃないかな」というような話をさせていただいた。その時も感動しました。

今回、第2回目のワークショップをするということで、9月の中旬くらいまでは住民自主企画というのを一生懸命頭の中では考えてたんですけど、こういった形になって、ほかの例えば県のビジョン委員会とかで委員長をさせてもらってるときなんかでも高校生からも話を聞こうということで声かけをしたんです。県民局の位置の関係もあるんでしょうけども、どうしても呼ぶ学校が小野高校であったり三木高校、社高校、北条高校だったかなに声をかけて来てもらうというのがあったんです。非常に今回まず反省をしたのは、多可町民でありながら何で多可高校とか北はりま特別支援学校の子も達に声を掛けなかったのかなっていうのを非常に反省をします。今回こういった形になって中学生や高校とか、いろんなところを探そうというところで、事務局の方と一緒に回りました。どの高校も断られた高校は一つもなかったです。逆に行く高校、行く高校みんな受けていただいて、特に多可高校なんかは最初行った時は20～30人の学生が集まって、どうなるかなと思うくらいの高校生が興味を持ってくれたりして、そういった加減もあって、西脇工業とかには声がかけれなかったんです。また、北はりま特別支援学校の子も達や西脇北の女に子に声をかけたら、「やります」って返事が来て、それから何回かお会いさせてもらったり、発表の練習とか考えた事をずっと見せてもらう中で、何かこれからの多可町ってそんなに捨てたもんじゃないでっていうような思いがしました。それと今回大学生からいろいろと聞いたんですけど、質問をちょこちょこ変えてるんです。実は。大学生にはやりたいことではなくて、もう実際にいろいろと活動されているグループだったんで、自分達が運営するんだったらみたいなどの話を加味してほしいというのを言いました。高校生達、外国人の方もそうなんですけど、とにかく大人がどう言おうと自分達がやりたいこと、大人がどう言おうとまちづくりプラザにあってほしいものを遠慮なく言ってほしいと。「これ言うたら何か言われるかな」とか「これってちょっとおかしいかな」という考えは全部捨ててほしいと。とにかく自分の思うがままに発表してほしいというのを伝えました。それと中学生には、やりたいことプラス多可町の良いところをぜひ中学生目線で発表してほしいんやというのを付け加えて。それがために中学生は2～3回集まって終わるところが4回5回と部活の終わりに中プラザで集まってがんばってくれました。当日の発表を聞いていると、一つ一つの団体が私達の想像以上の言葉を言うてくれました。その発表の表現の仕方がすごく良いんですね。伝わるというか。私はしゃべりがそんなに上手じゃないんで、突き刺さるような話はできないんですけども。あの子達の話の聞いていると、その一言一言が突き刺さってくるというか、そういった思いを感じました。これ生涯学習まちづくりプラザなんで、生涯学習っていうと、ちょっと勘違いしてしまうとちょっと年配の方の占有する建物っていうイメージがあるかもしれないんですけど、それだけじゃまちづくりプラザの集客というか、利活用はもったいないので、赤ちゃんの世代から中学生、高校生、大学生そして高齢者も含めて、すべての方々が利用するだけじゃなしに活用もさせていただいて、それも尚且つ参加者じゃなしに自主的な活動をすることによって、このまちづくりプラザがより良い建物になるのかなという感想を持ちました。

それでは次の次第に移らせていただきます。

<p>次第3</p> <p>(座長)</p> <p>(事務局)</p> <p>(座長)</p>	<p>今後の委員会について</p> <p>まず事務局から説明をお願いします。</p> <p>今後の委員会のおおまかな流れについて、説明させていただきます。 まず、本日の委員会でこの後、委員の皆さまから運営に対する提案を事前をお願いしていたんですけど、発表をちょっとしていただいて、本日、欠席の委員からは後日その提案を書面でいただきます。 その提案とこれまでの委員会の活動等をまとめ、町に提出する提案書の案を事務局で作成いたします。 その提案書(案)を次回の委員会で協議いただき、その協議を元に完成させた提案書を町に提出したいと考えています。</p> <p>ありがとうございます。メールでも来てたとおりになります。町に対してのまちづくりプラザの提案書というのを今回と来年1月くらいの委員会で決めさせていただいて、できれば2月中くらいには町に提案書の提出をさせていただけたらと思います。もちろん提案書の作成もそうなんですけど、提案を町に出すときどのような形で出したらいいのかなとかいう思いもありますので、またそこら辺の検討もお願いします。</p>
<p>次第4</p> <p>(座長)</p> <p>(A委員)</p>	<p>運営に対する提案について</p> <p>4番の運営に対する提案についてです。 もちろん日にちが急だったんで、きっちりした文面でなくてもいいと思うんです。箇条書きとか、今の思いを率直に話していただく中でしたいと思います。今日出せなかったのはまた後日メール等で事務局のほうへ送っていただいて、それをいったん事務局のほうで提案書の仮としてまとめていただいて、それを1月に再度検討をさせていただくという流れをさせていただきたいと思います。まずA委員から順番に提案があればお話をお願いします。</p> <p>この提案書に書いていいのかわかりませんが、とりとめもなく考えたんですけど、1つ目は時間帯によって来館できる年代層が随分違ってくると思うんです。昼間は仕事に従事されてる方とか学生はまず来ることができない。仕事をリタイアされた高齢の方とか子育て中の若い層にいかに来てもらえるかを戦略的に考えていかなければならないんじゃないかなと思います。</p> <p>指定管理者制度というのがありますけど、低予算で管理運営できたらいいというものじゃないと思うんですね。最高の施設ができていますから、中のサービスなり運営も最高にしていかなければならないと思うんです。達成目標なんかも考えて動向調査していくのもいいと思うんですけど、ちょっとわからないんですけど、正規職員と非正規職員なんかの仕事の分担なんかをプラザ全体で、また図書館でどういうふうにするのかなというのも一つ大きな点じゃないかなと思います。</p> <p>それから図書館の入館者数、貸出冊数にもこだわらなければならないし、同時に「あすみる」全体での入館者数も分けて考える部分と一緒に考える部分を見極める</p>

というのも大事なんじゃないかなというふうに思います。

それと複合施設ならではの長所なのか、図書館だけの場合とまた違った生涯学習の施設としてのそういう長所を活用していくというのが大事じゃないかなと思います。

それから教員OBとかを中高生の学習支援者として常駐させるというか、これにもその時々謝金とかの支払いじゃなくて、ポイント制みたいなものにして、何らかの特典でお礼にするみたいな、そういう中高生の学びの場としてもこれから特にニーズも出てくるんじゃないかなと思います。

最後です。年間200回くらいのイベントを考えて、マルシェなんかもいいと思いますけど、今出てましたけど、多可町の中にプロ級の人材というのは大勢おられると思うんです。そういう方に代わる代わるというか、1時間2時間の講演じゃなくて20分30分の講演でもいいと思うんですけども。きっとそういう人材がたくさんおられると。そういうのを発掘して交渉して出てもらって、多可町全体に広げていくというようなことも大事なことだと思います。そういうイベントなんかは、きっとそういうことを仕掛けるプロがおられると思うんです。そういう方にもアドバイスをもらって、素人ばかり考えるんじゃないで、仕掛けのプロというかそういう方の意見も聞いて、私は賑わいのプラザというのが一番大事だと思いますので、寂しいガラッとしたそんな施設ではもったいないし寂しいですので、とにかく人が集まる、そういうのをいかに来てもらうかということを考えていきたいなというふうに思います。

(C委員)

1回目も2回目もワークショップに参加できていないので、具体的にどうということっていうのはまったく想像もできないんですけど、A委員が発表された運営に関してですけども、具体的なのはまったく今のところは頭にはないです。ただ私がやりたいこととか、こういうことをしてほしいとかはたくさんあるんですけど、ただこの1月下旬に提案書案をつくる。で2月に提出するっていうのは町に？

(事務局)

町にです。

(C委員)

そしたらそれは答申みたいな感じになるんですか。

(事務局)

答申ではないですけど、この委員会をやってきた成果物みたいな感じですよ。

(C委員)

図書館は私はもう以前からずっと言い続けているんですけど、町の直営でやってほしいし、そういう方向で進んでいるというふうにも聞いているので、図書館は公立の町の運営というふうになると思うんですね。でもプラザはどういう形になるのかっていうのは私はまったくわからないんですけど、そしたら1つの建物の中に、町が運営する団体と、ひょっとしたらそうではない団体ができるっていう2つになった場合にその先行きがどうなるかはちょっとわからないんですけど、ただひょっとしてプラザの方が指定管理が入ることになったら、お金を取って有料にして施設を使ってもらってというようなことが主体になると思うんです。そしたらやっぱり今まで中央公民館とか八千代とか加美もそうなんですけど、プラザで無料でできていた活動、特に高齢者の方なんかはプラザに行けば無料でいろんな会議なり運営しているボランティアグループなんかの練習だとかいろんな打ち合わせだと

かそういうことがいつでも気軽にできていたのにそれがなかなかしにくくなる。いちいちお金を取られるとかいうことになったら、やっぱり二の足を踏むということにもつながると思いますし、それからA委員がさっき言われたような賑わいの場になるっていうことを考えたら、まあ無料になったから人が多く集まるとかそういうのは分かりませんが、ただやっぱり有料になるということで例えば支出が増えるということになったらハードルは上がると思うんです。だからその辺も考えていたきたいのと、プラザと図書館が同じ建物の中にありながら別々の動きっていうか、どういう形になるかは想像もできないんですけど、少し前に図書館協議会で話が出た、プラザはプラザの代表とか職員とかいて、図書館は図書館で代表とか職員がいて、それでそれぞれにボランティアグループが多分できると思うんですけど、それが別々の動きをしていたんではプラザ全体の大きな動きにはなかなかまとまりにくいってような意見が出て、だからプラザのボランティアとかグループで代表と、それから図書館のボランティアとかグループの代表の中にその2つの両方の施設のまとめ役をするようなコーディネーターが必要って意見が出たときに、私はなるほどなというふうに思ったので、そういうこともプラザを運営していくサポートしていく応援団としての1つの動きとまとまりになるためにはそういう人材も必要かなというふうに思いました。

(B委員)

私もまったく考えておりませんと言うのか、いろいろと思いつくんですけど、まず事務局からこのメールでもらったときに、運営って何を考えたらいいんだろうっていうことを思った。今も思ってます。いまC委員がおっしゃられたプラザと図書館2つに切り分けるっていうか、そういうふうな方法と、やっぱり1つとして、私は今のテーマで言うと「あすみる」は図書館サイドから見たら全体が図書館です。プラザという概念で見ると図書館も含めて全体がプラザですと、そういうことなんだと私は思ってます。だから今、C委員がおっしゃられたように全体で1つで一体としての運営というのが必要というふうに今お話を聞いててそれは思います。それともう1つC委員の話を聞いていて、有料化かどうか。それについては私は基本的にはこの施設はフリーだと思うんです。とにかくフリーというワードで、そこは一つ一貫した思想というかそういうのは貫くのがいいのかなって思ってます。これについては以前課長がおっしゃられましたよね。確かおっしゃられたんですよ。タダがいいというふうなことをおっしゃられた。図らずもかもしれませんけどおっしゃられて、その通りだと思いました。フリーです。自由に思った自分がやりたいことをそこでやるっていう、一人でもできるっていう、はじめられるという、そういう場所を目指すのであれば、やはりそこはフリーということにこだわった施設がいいのかなと。それも1つの運営のテーマかなというふうに思います。そういうふうに思った時に全体をどう管理していく、統率していく、そのところの方法ってどういうふうに考えていかなければいけないのかなというのは、ちょっと考えなければいけないなと思っています。

後はこの前も申し上げたんですが、開館時間。時間という軸でも考えないといけないのかな。やっぱりどういうふうやっていくかっていう組織は当然考えないといけないと思うのと、それをまたどういうふう提案していいのかってことなんだと思うんですけど。すいません。ちょっと運営ってどういうことを考えたらいいんだろうってというのがいまテーマになってしまっています。私自身が。

(D委員)

今まででしたら事前に事務局の方からこういうことで話をしますっていうのが来たら、わりといろんなことが浮かんできたですね。でもこの運営に関しては行政の方からたたき台とかそういうのがあればそれに対しての、私達はそれに対してはまったくの素人ですので、どういうのが良いのかとか分からないので、たたき台があれば話はできるけれども、何か真っ白の中でこの素人が言っているのかというようなことがあったので、今回は白紙で何もありませんけれども、それは行政の方から出していただいてもいいのかなと。それが決定とかじゃなくて、こういうのがありますよ、こういうやり方もありますよというのを専門家の方から教えていただけたらなと思って今回は出していません。それと、いまA委員もC委員も言われたように、専門家というかコーディネーター、第三者のそういうのに長けている方にちょっとアドバイスをもらおうとか、そういうのも1つの案じゃないかなと思いました。私は皆さんよりもまちづくり委員会に入ったのが遅かったので流れに乗らないままもうあと3月までだと思っているんですけども、乗れないまま今も来てるんですが、まちづくり委員会が中心になって考えることと、行政がこれはどうですかと提案されることと、そこら辺がちょっとぶれてるというか分からないまま来てるんですけども、ちょっと委員の方もこれだけ減ってきてるっていうことは、若い青年団の方とか商工会の方とか、立石君、わたしいつも一緒だったんですが加古川から来てますっていうあの意気込みのあったあの方達は、まあ寒い忙しいからかもしれないですが、この参加しないということに何か課題を残しているんじゃないかなというようなことを、今回この運営に関してということアンケートが来たときにふと思ったんです。私達は何をしたらいいんでしょうか。B委員も同じような考えだとおっしゃってたので、一緒だなと思って。うーん、クエスチョンマークです。

(座長)

最後に私の方から運営等に対する提案です。

まず多可町が目標としてます、生涯学び続けられる生きがいあふれるまちづくりっていうのがあります。その中核としては生涯学習まちづくりプラザ「あすみる」が推進する住民の居場所となるんだと思います。学びに関しては新しくできる多可町図書館や今までの文化連盟、高齢者大学等々の推進もあるんでしょうが、生きがいあふれるという箇所においてはやはり世代間を超えた交流であるとか、多文化な交流とか、新しい出会いであるとか、喜びや学びの喜び、これまでにない新しい活動をこの新しい「あすみる」という居場所で実践していただくことが、新しいまちづくりにつながって行くんだらうと思います。ただこのまちづくりプラザ「あすみる」というものだけじゃなしに、ここで行われる様々な活動が、加美や八千代のプラザもしくは町内の様々な施設と連携がされることによって幅の広いまちづくりとなるんじゃないかなと思います。まず経営母体としては町立でと考えています。その理由としては、その一年後にできる統合中学校やアスパル、子育てふれあいセンターとの関連性です。やはり「あすみる」だけが指定管理であって、ほか町立というところでは内部的な配慮や連携が取りにくいでしょうから、当初としては町立でスタートするのがスムーズな立ち上げかなと考えています。それは西脇にミライエであったり、小野のエクラであったりの立ち上げの時も知ってますので、非常にご苦労されたという経験があるので、当初に関しては町立でスタートするほうがいいのかと考えてます。

じゃあどんな運営の体制にしたらいいのかと言え、やはりあくまでも住民による住民のためのっていうのが前回の建設委員会でのまとめでありましたので、町立

でありながら中の運営に関しては運営委員会のような組織、ベルディーホールで言えば評議委員会のような組織がいるんでしょうというところです。そこが、行事や企画や開催等の検討実践をする組織として立ち上がることが望ましい。ただし運営委員会において一部の方でまとまってしまうと、せっかく今までワークショップ等々で取り上げた中学生や高校生や若い意見とか多文化の意見なんかは反映されなくなることが考慮されるので、運営委員会の中でも例えば文化連盟部であったり学生部であったり多文化部であったり子育ても、これすべて仮の名前ですけど、幅広い意見集約が可能な組織体制として委員会が運営されれば望ましいかなと思っています。企画的にはこだわりますが、住民自主企画のような募集をどんどんしていただいて、今までにない交流や表現、新しい発想と企画運営などを自主的に考えて行動に移すというところを目指していただけたらと思います。それは特に学生や若者にとっては、自分達が企画して運営して実践して開催して、そして反省してというところまで持って行くことによって、非常に愛着というかそれはプラザだけじゃなしに多可町というものに対しての愛着、思い入れが高まるんじゃないかなという気がしています。

図書館はもう多可町立図書館でいいと、それで行くんですが、図書館はある面、本を借りるという目的があったり、本を見るという目的があって、来場される方があるんですけど、「あすみる」は様々な居場所があるけれども、その居場所に対して部屋に対して継続的にご利用いただくと、来場いただくためにはただ単なる利用者としてだけではなしに、先ほども言いましたけど活用者の立場になっていただくことが先決じゃないかなと思います。例えば掲示物や展示物、大小のイベントや講習会等々、様々なグループの方々が気軽に活用できるシステムの運営等も入れていただけたらなと思っています。

またA委員が先ほど言われましたように、町内には様々な名人というかいろいろな特技を持っておられる方がおられます。そういった方を探して背中を押すというのもこの「あすみる」の役目じゃないかなというように考えてます。

変わったところで思いついたのが、例えば学生達の部活動の1つにあすみる運営部みたいな部活動としての成り立ちがあってもいいのかなと思います。有名人や有識者を呼んで講演をしていただいて学ぶということよりも、地に足を着いた地元民から学び、学生から学ぶ、外国の方から学ぶというものが多可町らしさが出て、主催者も観客側も様々な形で体現ができるのではないかな。また主催した者にとっては非常に良い体験の場となり、活用者としての意識付けもできるだろうなど。またそのような取り組みはこの北播磨だけじゃなしに、県内でも非常に少ないというか、私の知り得る範囲ではないので、そういったことは話題性にもなるのかなと思います。地域での活動や文化連盟等の活動も非常に困難な状況です。秋に行われた文化祭も文化連盟の中からもなかなかすべての文化連盟に入られている方の団体が参加をされるということが非常に厳しくなってきました。ロビーなんかもちよっと空きが目立つようになってきてます。そういった面でいくと、文化連盟自体の活動も非常に困難な状況かなと思うし、また主体的にまとめ役というか、例えば先導役であったり、区長さんもそうですけど、そういったことになること自体が面倒だと感じる時代である。だからこそ過去からの事例や他でやってるからとかそういったこと、他での成功例とか他ではこんなことやってたよとか、そういったことにあまり意識を持たず、「ザ・多可町」というかオール多可町民が「ザ・多可町」という感じで、多可町の中でできることを「あすみる」で体験体現していくのが長い目

で見ると非常に良いのかなと思いました。とにかく年齢や世代、性別、人種等々区分けなく自立性と協働性を「あすみる」において体现できる、これがこれからの多可町にとって、まちづくりだけじゃなしに人づくりにも関わる施設になってほしいという思いがあります。

以上で委員の方からは、提案とかいろいろ意見をいただきました。非常に欠席者が増えるというか、どんどんどんどん人が減ってくということで、まあそれはどうなんかなという思いもあるし、私の先導役としての反省点多々あるんですが、これが現実なんだと思うんです。ミライエの最初の時もそうでした。私も委員でいたんですけど、30人くらいの委員さんが、最後の会の時には10人くらいになりました。それはじゃあミライエを利用されないかっていうと結局は利用されるんですけどね。利用はするけどなかなか活用者にならないというか、何かしてたら参加するんやけど、何かを主体的にするということがちょっと億劫な時代であることは間違いないし、自分達に何か利得があればそこには参加するんやけども、利得がなければちょっと足が遠のいてしまうとかいうことも、私ら世代40代50代にはあかん世代であることは間違えない。でもそういったことも含めて、このワークショップじゃないですけど、中学生高校生のこの純粋な気持ちをそのまま生かせるようなまちづくりプラザであればいいと思います。

最後にちょっと運営という面で話がありましたので、私的に運営というものを解釈しますと、特別難しく考えていただくことはない。例えばお店をします。その経営者はどうしますかっていうのは運営じゃないんです。例えばレストランを開きます。経営者はどうしますか。誰がいいですか。〇〇さんと呼んできましょう。これは運営じゃないんです。運営と経営はそこが違う部分であって、このワークショップを第1回2回と開きました。これ自体が運営なんです。何かを考えて何かを実行して、たくさんの人に集まっただいて催しを行う。これ自体の積み重ねです。こういったことがずっと続くようなところがあればいいかと思う。ただなかなかそれは難しいことではあるんですけど、だからこそ多くの方に運営委員会というかそういうものに携わってほしいと思います。

(B委員)

今の座長の言われた運営を、運営を続けて行くというのか、それをいかに続けて行くかというのが経営ですよ。ちょっと分からないんですけど。じゃあその経営ってどういうふうにやっていくのっていうのがこのテーマではない。

(座長)

まちづくりプラザに関しては私は町立がいいと思ってるんで、経営者は町になります。

(B委員)

町でいいんですけど、どう経営していくかっていう。それは組織に落とし込まれるのかもしれないですけど。

(座長)

そうやと思います。

(B委員)

それとこの間のワークショップと吉田田タカシさんの講演を聞いてふと思ったのは、今の運営委員会というのは運営をイベントをそれこそスケージュリングしていくというか、やっていくという運営は運営なんですけど、それを先ほどの座長が提言された運営委員会になるものがあって、それが偏ったものになってしまっ

はいけないし、ということでアドバイザーボードみたいなものができるといいかなと思って、そこにはぜひ入って欲しいなって。まあ吉田田タカシさんは入ってほしいなとは思いますが、北はりま特別支援学校ですね。彼は絶対アドバイザーボードに必ず入ってもらわないと困るくらいに思います。やっぱりバランスをとるのは彼らをおいてないと僕は思っています。ほんとすごいものを見せていただいたとか、気づかせていただいたとか、ぜひ1つはアドバイザーボードみたいなものは運営委員会と別途組織の中に作るのがいいかなと。そこには北はりま特別支援学校さんというの必要なメンバーかなというふうに思ってます。できたら吉田田タカシさんも入っていただきたいという感じに思いました。

(座長)

ありがとうございます。ほかに事務局側からも意見がありましたら。

(D委員)

結局、図書館もそうですけど、やっぱり人だと思うんですね。それで図書館司書さんなんかは本当に専門職ですので、正規じゃない方でも司書資格を持っておられる方は専門職ですので、結局はお金のことになるかもしれないですが、関わりたいけどやっぱりこれでは生活できないわとか、それで一人の方がたくさんボランティアをされてるケースがあるみたいで、私はたかテレビを見たことがないんですけど、たかテレビに映ってることがあるみたいで、農協で出会って話されたり、「新しい図書館できるねんね」とか、わりといろんな方に話を尋ねられたりするんですけど、ぼんやりとしたボランティアとしか分からなくて、「どういうことをするのか?」とか、まあ日本人は恥の文化っていうのでお金のことなんか出すととても何かピュアじゃないと思われるんですけど、やっぱりこの時代ポイント制も言われてましたけど、そういうことを付けていかないと人材は集まらないんじゃないかなというように気がして。続けて行くっていうことですね。一人の方がいろんなところで、社協ではこれだけもらうんだけど、「この時は時給200円とか全部バラつきがあるのよ」って聞いて、そんなことがあるのかと。「それはどこで判断されるんやろね」とかいう話が出たり、サポートネットもおぼちゃんですけど2~3人「入りたいんだけど私らみたいなものでもいいの?」とか、それこそ人材はいっぱいあると思うんですけど、何か見えない壁があるっていうか、ハードルがあるような気がするんですね。ですから本当に資格を持っておられる専門職に対しては、どこの図書館も同じような感じなんですけれども、新しくなるということでちょっとそういうことも考えていただけたら60や70まで働くこの時代になってますので、ボランティアっていう考えももうほんとに真心だけでやってるのよっていうのは時代遅れというもの変ですが、時代は令和ですのでそういう考えも変えていきながらしたらどうかと思って。ここのところよく声を掛けられて、じゃあ具体的にこうしてねっていうようなことがなかなかなくて、「本は好きだから関わりたいんやわ」とか言ってる人があったりして、でも私なんか今日でも7時前に轟を出たんです。30分はかかると。年寄りの運転で。またこれから30分かかって寒い中帰るんですけど、中区に集まっても遠いところから来る者と歩いて来れる者っていうのもあるし、これ事故が起こったらボランティアの保険入ってたかなとか思ったり、昔はサポートネットでもちゃんとボランティアの保険に500円か何か掛けてたと思うんですね。今はそれもないし。

(図書館長)

サポートネット全体では掛けてます。個人からもらっていないだけで掛けてます。

(D委員)

そうですか。そういう保険のことなんかも、ピュアな心に頼ってますみたいなボランティアはもう時代遅れじゃないかなと思いました。

(座長)

ありがとうございました。北はりま田園空間博物館って、西脇の道の駅とか多可町や西脇の観光をされている、元々ボランティアだったんですけど。僕も10年くらい、まあ立ち上げの時に関わって、それから空いて6年か7年前に復活したんですけど。今はボランティアじゃないです。「ボラバイト」です。僕は「ボラバイト」っていうのを提案して、その協会の中で。ボランティアにいつまでも頼る気持ちはなくて、時給1000円とかそんなアルバイト的なのは無理なので、「ボラバイト」という言葉を使って支給してますけど、時給換算やと400円かな。例えば4つの部会があって、交流部とか広報部とか地域部とかあるんですけど、広報部で1枚チラシを作ると4000円とか、Facebookに1つ投稿すると1記事に対して100円とか、そういうふうに全てお金勘定して支払うようにしてます。ですから、僕はもう今は退いてるんですけど、毎月なんやかんやしてたら2~3万入ってきてたんですかね。決してお金目当てで来る方ってないんですけど、今後のことを考えるとそういった考え方も、予算のこともあるでしょうが提案の中に、図書館だけでなくプラザ全体のことを考えてしていただいてもいいかなと思いますし、ぜひ中学生や高校生が「あすみる」を活用して何かするときに補助金を出していただけたら、より活動がしやすいのかなと思います。

余談になりますが、いろんな面で有名な安芸高田市が各学校に高校生徒会に100万円をどんと渡して好きなことをしなさいと。まちづくりというテーマだけ与えて、好きなことやってみなさい。別に領収書の添付も報告書もないからっていうようなことをやりだしました。それもなかなか全国的にはないことで。100万はちょっと行きすぎじゃないかなと思うんですけど。逆にそんなもらったらドキドキして、それを預かってる者の身になると気の毒で仕方ないんですけど。これは高校生・中学生だけじゃないんですけど、何かしらやりたいなって思ってもできない原因があるんです。それはお金だけじゃないですよ。人が場所がとか。それを上手にセッティングする。A委員が言われた、B委員も言われたいわゆる仲介をするというか、そういう役目の方が委員会の中でしっかりと居られればいいかなと思います。

ベルディーホールができて、住民の方々が評議委員会になられた。で、もう何十年か経ったんですけど、個人的に思うのは非常に素晴らしいですよ。非常に素晴らしいんですが、最近住民自主企画が偏ってませんかって思ってしまうんです。新しい住民自主企画が出にくい状況があるというか、提案しにくい状況になってませんかっていうのはちょっと思ってるんで、まあそういったことがまちづくりプラザでは、いろんな方がやりたいことがやれて、尚且つ図書館とプラザの活用が連動されて連携されて相乗効果として盛り上がっていくのがいいかなと。そんなのを上手にまずは事務局がたたき台としてまとめていただいて、それを私達がまたいろいろと言わさせていただくということにしたいと思います。

ほかに。

(B委員)

もし運営とか今後、走り出したときに制約になることがあるんであればちょっと。でこの制約はいらんんじゃないかなのってなったら改正を提言することも。やって

みたら、この間もあったんですけど、やろうとしたら良いことやるんですけど、ここでは物品の販売はできませんとか、そしたら元々そこはセッティングするの会場としてまずかったですねみたいなそんなことになってね。あらかじめ決まっている制約があるのであれば、それは教えておいてほしいなどは思っています。

(座長)

ほかに何か。

いわゆる昨日の今日でさあ提案でしゃべってくださいみたいなものですから無理がありますので、今日の意見をいったん議事録にまとめさせていただいて、フィードバックしていただいて、今日来られてない方も今までの委員会、昨日私ちょっとまとめてみると、よく考えるといろんなことやってないようでやってるんですよ。各委員によるプレゼンテーションもしたし、図書館視察ということで神戸の三宮の図書館にも見学に行ったり、新しい図書館の理念を知ろうということでC委員からお話をいただいたり、ベルディーホールの立ち上げで宮崎さんとか、岡本真さんの講演会とかしてきた。その時その時でいろんなことをしてきてますので、ちょっと過去の議事録を確認等々して渡すとなると膨大になってしまうので、多可町のホームページを各自見させていただいて、ちょっと振り返りながら、そんなに文章じゃなくてもいいと思います。箇条書きで。まとめていただいた文を1月の10日くらいまでに事務局宛にメールなりFAXなり電話なりしていただいて、それを事務局でまとめていただいて、次の第13回で事前に配っておいて意見・訂正をもらうというところでいきたいと思います。

だから次の委員会は1月の終わりくらいで、ちょっと時間にゆとりをもってさせていただいて、ちょっと今回は私が急遽この日と言ったので申し訳なかったですけど、ちょっと事前に各委員さんの予定も聞いて、なるべく参加が増えるように。もう最後ですから、させていただけたらと思います。

(B委員)

すいません。今さら聞けないというかちょっと怖々お話しするんですが、私はどちらかと言うと立ち位置は「あすみる」全体が図書館だと思っています。今度新しい図書館になると図書館のコアな部分の図書館って、今の図書館とどう変わるんですかっていうのを最初から聞きたいっていうのはずっと思ってた。

(座長)

まちづくりプラザの「あすみる」が今から1年かけて運営に入るところなんで、多可町図書館に関してもこの1年間をかけてなので、今の今どう変わるんですかって言われても建物が変わりますとしか言えないと思いますよ。

(B委員)

そうなんですか。

(C委員)

どう変わってほしいんですか。

(B委員)

私は変わってほしいというか、すでに今の多可町図書館で充分満足してるんですが、しいていうと大きな声で話ができるっていうのが一つ。私はできたら図書館に行って図書館のカウンターの向こうの人とお話したい。できるだけ。

(C委員)

カウンターの中の職員と。

(B委員)	はい。
(C委員)	今までされてこなかったんですか。カウンターの向こう側にいる職員といろんな情報交換とか本の話とかはされたことはないんですか。
(B委員)	いや、どうなんでしょう。微妙です。遠慮があります。
(図書館長)	呼んでいただいたら。
(C委員)	指名されてもいいですよ。私らしよっちゅうします。
(B委員)	ネタもないし、最近ですとおもしろいのが、多可町図書館ならではでいいなと思っているのは、私1年半かけて1冊の本を借りて読みまして、実は私これ1年半借りましたと。
(図書館長)	私その話ちょっと聞いてます。やっぱり時間的なこともあるので、こったりということはできないかもしれないですけど、でもそうやってカウンターともしくはフロア、カウンターの中には声かけにくいけど、うろちょろしてる職員がいたらそれをつかまえてもらったらいいんですね。で、そういう話をされたっていうことをまた職員が中で共有して「ああそうなんや。やっぱりその本入れて良かったな」とか言ってまた中で話をしているので、やっぱりそういう声を聞いたら、やっぱり入れたいなとか、その時にそれぞれの顔が思いうかんで入ってるんですね。やっぱり来てもらうために。
(C委員)	感想とか話したりそういうことはないんですか。例えばよその図書館の情報とか図書館だけじゃなくて、いろんな美術館とか博物館とかもし行ったりしたとしたらそういう話とか、それから見た映画の話でもいいし、そういうことを情報じゃなくて私は話したいから話すだけなんですけど。そういうことはされたことはないんでしょうか。
(B委員)	ただあります。あまりに感動しすぎて文章に書いてこれ貼ってくれて言ったら断られました。
(図書館長)	それはたぶん前の前くらいでしょうかね。そんな話もどこかで。私はそれについては聞いてないので大変申し訳ないですけど、ただ5月くらいに広報で特集を組んでいただいたときに、いろんな施設こんなになりますよって。で、一番締めくくりに「ぜひどんどん話しかけてくださいよ」という一文を載せてたんです。そしたらご覧になって、今まで1回も話しかけられたことのない利用者さんが「これ話しかけていいんや」と言って、「今まで遠慮してたからよう言わなかったけど今日話するんや」と言って自分の興味のこと言われてしたことあるんです。だからどどんってどこまでご期待に応えられるかあれですけど。
(B委員)	でもそういう雰囲気があるのも分かってるんで。僕は今の図書館好きですよ。

<p>(図書館長)</p> <p>(座長)</p> <p>(B委員)</p> <p>(座長)</p>	<p>もう一言だけ最後に言わせていただくと、いつも言われる「何で僕の好きな本がなんかいつも目につくねん」っておっしゃってくださるんです。あれものすごい職員が励みになるんです。そういう「ありがとう」とか「よかったわ」とかという言葉でその気になってしまう。その気にされられて仕事してるっていうのが図書館員共通の、他の職場もそうかもですが、それがあって、ぜひどんどんお待ちしています。</p> <p>間違いなく図書館は変わりますよ。 逆に心配なのは、図書館は変わるけども貸し館、こっち側がどうなるかなというのが不安なんです。</p> <p>それは多可町図書館があるから大丈夫です。</p> <p>ありがとうございました。 時間も押し迫ってますし、非常に寒い中なので今回の委員会はここで終了させていただきます。</p>
<p>次第5</p> <p>(座長)</p> <p>(事務局)</p> <p>(生涯学習課長)</p>	<p>今後のスケジュールの確認について</p> <p>今後のスケジュールの確認について、事務局からお願いします。</p> <p>先ほど座長からお話があったんですが、1月に皆さんから提案をいただいて、それをまとめ、提案書の案を作らせてもらって、それを協議する場として第13回のまちづくり委員会を1月下旬にしたいと思います。今度は日程調整もさせていただきます。それをもって今度2月の下旬にその協議を反映させていただいて提案書を作り上げ、2月下旬に町に提出するという形にしたいと思います。ですので、まちづくり委員会として集まるのはあと1回くらいになるかなと思っています。</p> <p>いちおうそのたたき台というか、今の構想みたいなやつを示させてもらって、それにご意見いただく。それから例えばさっきお話が出てました指定管理に出した場合のデメリットこんなあるんちゃうとか、そういうような意見も含めて総合的に提言させていただいていう形で、基本はおっしゃった通りスタートは直営という形になります。で、直営の時の問題点というのはこんながありますよというのを出させていただいたりして、そこにご意見いただいたりしてやっていくような形にさせていただいたらいいんじゃないかなと思って。運営といっても、それこそ一人ひとり捉え方が違ったりいたしますので、たたき台的な、ご意見いただくためのそういうのを作らせていただいて、ご意見そのまま載せさせていただくということでもいいのかと思ってますので、作らせていただきます。</p>
<p>次第6</p> <p>(座長)</p>	<p>閉会</p> <p>ありがとうございました。今日は課長の言葉をもって閉会とさせていただきたいと思います。非常に寒いです。運転のほう安全運転で帰っていただけたらと思います。今日はありがとうございました。</p>